

緊急住宅会議 第8回会議 議事録

日 時：2014年12月19日 18:00～20:00 場 所：内野設計

●木住協30周年事業での事前復興WGppt 解説

●先行高地移転、仮設住宅試行の用途など

- ・まちおこし協力隊のすまい
- ・臨海学校
- ・都会の方が資金を出して週末利用（別荘）、管理は地元の雇用→現代の参勤交代
- ・受け入れ側は掃除、ヒーターつけておく、食材を準備するなど、
- ・10日で10万円、など、シェアハウス
- ・学校の特別教室
- ・あまり用途を固定しない「ハコ」であるべきでは？
- ・上勝でやっているようなシェアレストラン
- ・県外に出ている人の帰省につかう
- ・お金を出し合って、自前の老健施設を
- ・集落で移住
- ・へんろ小屋「善根宿」お接待 地元のお年寄りとの交流
- ・歩道、車道、みちのつくりを考える
- ・高規格道路沿いに建てる
- ・有事のために基礎だけ先に打っておく
- ・飯盒炊爨
- ・炎を見る体験を
- ・樵木林業→株から出る（萌芽する？）適切な太さの枝を炭サイズに切る 300年の歴史
- ・海幸彦山幸彦体験！炭焼きと漁業体験
- ・年何回かの防災遊山→備蓄品の消費期限・・・

●応急仮設住宅徳島型の進展を

- ・候補地選択+配置計画→プレ協、全木協、徳島型に前もって割り振って準備を進める
- ・徳島型各チームは地域ごとに建築士会の支部単位であたってゆく
- ・全体を考えながら部分を考える。全体の青写真が必要→啓蒙へ
- ・選挙の際は候補者に考えをたず

●その他

- ・伐ってから製材加工へと、持ちまわる先々で材を立てて少しずつ乾かしていた
- ・原木市場 → 原木買方 → 製品市場 → 製品買方（材料やさん） → 大工
- ・材料やさんが工務店から発注を受けて、現場へ入れる
- ・製品市場から直接プレカットへ流れる
- ・最近では構造材だけではなく端柄材も
- ・津波到達地域の建物は高い方へと動くべき

- ・ 伝統、技術、両方必要
- ・ 土壁、土に噛みつくので先に塗った面の方が強い
- ・ 雨の多い県南では外壁側から塗る
- ・ ある地域では寝室を強くする意味で寝室の内側から塗る
- ・ 防災講座等、地域の歴史から話すと聞いてくれる
- ・ このすまいのような取り組みをどう普及させるか
- ・ 基礎だけしておく
- ・ 備蓄 どう攻めていくか
- ・ 発災までのライフワーク
- ・ これからはエンドユーザーにどう伝えるか情報をうまく使って
- ・ 組織の力をつかって
- ・ プロのこだわりをエンドユーザーにどうつたえるか
- ・ ライフラインが切れてしまうことを想定できているか
- ・ 「自分でやる」という意識